

## 第 17 回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 9 月 9 日（月）

午後 6 時～午後 7 時 30 分

会場：須坂市生涯学習センター ホール

### <次 第>

#### 1 開会

#### 2 挨拶

#### 3 新構成員自己紹介

#### 4 会議事項

(1) 「第 16 回須坂新校再編実施計画懇話会」のまとめ

(2) 須坂新校ワーキンググループについて（報告）

(3) 須坂新校施設整備事業基本計画について（報告）

(4) 校名選考について

①選考の観点と選考方法（案）について

②意見交換

(5) 懇話会の開始時間について

#### 5 その他

### <次回の予定>

第 18 回須坂新校再編実施計画懇話会

（日時）調整中

（会場）調整中

#### 6 閉会

## 須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○印 新規構成員

区分	氏名	所属等
1	三木 正夫	須坂市 市長
2	田中 洋友	小布施町 副町長
3	藤沢 敏和	高山村 副村長
4	勝山 幸則	須坂市教育委員会 教育長
5	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6	神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7	○ 西原 弘樹	株式会社サンジュニア 代表取締役社長
8	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9	霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	大山 由香里	須坂東高等学校PTA 会長
12	長岡 孝典	須坂創成高等学校PTA 会長
13	高山 美穂	上高井郡市PTA連合会 副会長
14	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)
15	上野 恵佐夫	上高井校長会 代表 (豊洲小)
16	坪井 俊文	長野地域振興局長
17	二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18	大宮 透	小布施町職員
19	小林 雅彦	須坂市教育委員会 前教育長 (座長)
20	安藤 駿	須坂東高等学校生徒会 会長
21	阿部 大輔	須坂東高等学校生徒会 副会長
22	河田 晴森	須坂創成高等学校生徒会 会長
23	石井 ひなの	須坂創成高等学校生徒会 副会長
24	山田 純子	須坂東高等学校長
25	山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
26	羽山 功	須坂創成高等学校長
27	市村 宣幸	須坂創成高等学校 教諭

### 事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
中村 勝博	教頭・副事務局長	宮川 敏晃	教頭・事務局長	井出 敦	主幹指導主事
嶋田 順一		市村 宣幸		有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
酒井 健次		柳澤 亘		土橋 邦彦	主任指導主事 (須坂新校副担当)
山岸 暢		春原 真			
酒井 知之		塚田 和弘			

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

生徒像  
育てたい

- 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者とつながり、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

学校像  
目指す

- 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む
- 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む
- 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む

地域の未来を、地域の方々と共に創る  
**コミュニティデザインハイスクール**



4学科の連携で地域の未来づくりに参画



学びの柱

- ◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICTを積極的に利活用

具体的な取組

- 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動）
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

単位制

連携

学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化  
学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に  
コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携  
地域を学ぶ国内外の高校生と交流

地域の方々との共同研究

**須高地域共学共創コンソーシアム**

新校が生涯学習の拠点

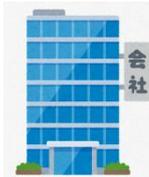
大学・専門学校

医療・福祉機関

地元企業・商工会

自治体

研究機関



## 第 16 回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

<b>日時</b>	令和 6 年 6 月 13 日 (木) 午後 6 時から午後 7 時 45 分		
<b>場所</b>	須坂市生涯学習センター 3 階 ホール		
<b>出席 (敬称略)</b>	三木 正夫, 藤沢 敏和, 勝山 幸則, 春原 博, 神戸 佳代, 半田 志郎, 大山 由香里, 長岡 孝典, 高山 美穂, 上野 恵佐夫, 坪井 俊文, 二ノ宮 邦彦, 小林 雅彦, 安藤 駿, 阿部 大輔, 河田 晴森, 山田 純子, 山岸 暢, 羽山 功, 市村 宣幸 (以上 20 名)		
<b>欠席 (敬称略)</b>	田中 洋友, 西原 弘樹, 浅井 洋子, 霜田 剛, 坪井 扶司夫, 大宮 透, 石井 ひなの	<b>傍聴者</b>	4 名
<b>事務局</b>	須坂東高校	中村教頭 (副事務局長), 嶋田教諭, 酒井(健)教諭, 山岸教諭, 酒井(知)教諭	
	須坂創成高校	宮川教頭 (事務局長), 市村教諭, 柳澤教諭, 春原教諭, 塚田教諭	
	県教育委員会	井出主幹指導主事, 土橋主任指導主事, 有坂主任指導主事, 小池主査, 依田主事	
<b>当日資料</b>	次第, 第 15 回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ (案), 校名選考について (小諸新校の事例紹介), 須坂東高校による視察報告, 現時点の配置・平面計画, 仮設計画・工事スケジュール, 施設整備に係る視察報告		

### 会議事項

- (1) 第 15 回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめについて (2) 統合方法について  
 (3) 施設整備基本計画について (配置・平面計画、仮設計画、工事スケジュール、視察報告)  
 (4) 校名選考について (小諸新校の事例紹介) (5) 須坂東高校による視察報告

### 構成員から出された主な意見(要旨)

#### 会議事項について

- (1) 第 15 回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめについて

資料 1 ~ 2 ページについて事務局 (県教委) から説明、質問、意見なし。

- (2) 統合方法について

一斉統合を進めることを事務局 (県教委) から説明。

#### 【質疑】

- ・一斉統合の前段として両校の交流についてはどうか。統合年度の前から統合するという意識を醸成することが大事だと思う。

→一部活動や生徒会活動、学校行事を含めて統合を待たずにできるところから進めていってもらえればと思っている。(県教委回答)

- ・統合前の交流については懇話会としても大事に考えている。2 校が一緒になっていくのは難しいことだと思うが、それを乗り越えてほしい。

- (3) 施設整備基本計画について

別途資料 (現時点の配置・平面計画、仮設計画・工事スケジュール、施設整備に係る視察報告) を用いて設計チームより説明

#### 【質疑】

- ・大職員室を学科・学年ごとという変更があるが経緯は。

→最初は大職員室を提案していたが、専門分野に分かれていた方がよいという学校の意見により変更している。(設計チーム回答)

- ・職員が集まって会議ができる場所についてはどうか。

→現在同様、既存棟にある視聴覚室の利用を考えている。(学校、設計チーム回答)

専門科および学年ごとの会議はそれぞれの職員室で実施することを考えている (学校回答)

- ・普通科と専門科を一つの学校として運営するビジョンを持つ新校では風通しの良さや協働性など、学校全体が新たな未来像を持つことが重要であり、作業面では分かれていても、メンタル面や学校の運営の観点からはオープンな部分、一緒に行う部分も必要ではないか。

→学年室は科に関係なく担任の先生たちが集まる場所。これにより、各専門科と普通科の先生方が融合できると考えている。また、それぞれの科から選出されたメンバーでの会議もあり、場所が一つにあるかどうかに関係なく、4学科の融合は可能だと思う。(学校回答)

- ・クラブ練習室が解体される。新校舎で軽音部が練習できる場所はあるのか。

→クラブ練習室は2期工事で解体されるが、解体前に新しい音楽室とクラブ練習室が整備される計画である。したがって練習場所がなくなることはない。(設計チーム回答)

- ・ロッカールームについてどう考えているか。

→新校舎では廊下の開かれた場所にロッカールームを設置する予定。今のロッカーでは荷物が入りきらないという現状も確認できており、現状よりも大きなロッカーを提供したいと考えている。(設計チーム回答)

- ・フレキシブルラーニングエリア (FLA) の使い方がイメージしにくい。それを示してもらえれば今後の検討に寄与すると思う。

#### (4) 校名選考について

資料3～5ページについて事務局(県教委)から説明。質問、意見なし。

#### (5) 視察報告

資料6～14ページについて須坂東高校から説明。

##### 【意見・感想】

- ・須坂東高校のイメージを統合までの5年間で変えていければよい。
- ・大槌高校には生徒宣言や校則検討委員会があることを知った。新校でも学校が活発になるためにこのようなものが出来たらよい。
- ・この生徒宣言を両校の生徒会で考えていき、同じようなものにして繋がれるようにしていきたい。
- ・新校開校を前に我々が5年間かけて色々なことをやる責務があるということを感じた。学校だけ、先生だけ、生徒だけに任せるのではなく、地域としていい高校を創っていかなければいけないということを感じた。

## その他

### 【次回】第17回懇話会

日程：令和6年8月～9月の実施を予定

内容：校名選考について

# 須坂新校ワーキンググループの設置（報告）

## 1 目的

新校開校に向け、新校の学校運営など具体的な事項について専門的に検討する。

## 2 設置するワーキンググループと主な検討事項

### （1）学校運営検討ワーキンググループ（令和6年7月より）

校名選考、学校目標、教育理念・教育方針、校歌・校旗・校章、広報 等  
学校運営に関する全般（ワーキンググループの統括）

### （2）教務ワーキンググループ（令和7年度より）

年間行事予定、履修・修得・単位認定 等

### （3）進路・学習指導ワーキンググループ（令和7年度より）

教育課程、探究的な学び、地域連携、学科横断、進路指導方針 等

### （4）校舎・施設ワーキンググループ（令和6年2月より）

施設整備全般、引越、既存校舎の整備 等

### （5）生徒会ワーキンググループ（令和6年7月より）

生徒会組織、生徒会行事、部活動、校則、制服 等

### （6）行事検討ワーキンググループ（令和7年度より）

課題研究発表会（探究発表会）、修学旅行 等

## 3 その他

進路・学習指導ワーキンググループで扱う教育課程と探究的な学び、および教務ワーキンググループで扱う履修・修得・単位認定については、今年度は学校運営ワーキンググループで大枠について議論する。

# 須坂新校施設整備基本計画（報告）

## 1 配置計画・平面計画

- ・校舎の配置については、懇話会で示したとおり
- ・必要諸室については、ワークショップや学校側の意見を概ね取り入れた
- ・諸室の配置については、入れ替え等も含め引き続きの検討を行う

## 2 仮設計画

- ・懇話会や学校での意見交換を踏まえ、2工期を設定して仮設校舎を小さくするローリング案を採用（校庭の仮設設置案との比較）
- ・プール跡と工業棟西側に仮設校舎を設置し、教育活動への影響を低減

## 3 工事スケジュール

- ・前回懇話会で示したとおり、1期と2期を設定
- ・1期工事の竣工において開校（開校後に2期工事）
- ・生徒と工事車両の動線を分ける、交通誘導員の配置、など生徒の安全に配慮

## 4 今後の動き（基本設計）

- ・基本設計とは  
基本計画の内容を踏まえて空間を具体化しながら、法令上・意匠上・技術上の課題を検討して、設計の内容を確定させる（その後、実施設計へ移行）
- ・基本設計図書の作成  
設計図（配置図、平面図 等）  
各種計画（外観デザイン、動線 等）

## 須坂新校 校名選考の観点および選考方法（案）

<p><b>選考の観点</b></p>	<p>①校名は「長野県〇〇〇高等学校」とする。</p> <p>②生徒が新校での学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像が表現されている。</p> <p>③設置される4学科の連携や「コミュニティデザインハイスクール」という新校の理念が表現されている。</p> <p>④地域とともにある高校として、地域の願いや期待が表現されている。</p>
<p><b>選考方法</b></p>	<p>校名選考にあたっては選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。</p> <p>〔一次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公募結果を参考に構成員による一次投票を行う。</li> <li>・公募及び一次投票の結果を参考に懇話会で校名案を3～5案程度にしぼる。</li> <li>・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次投票の対象に加え、対象を5～7案程度とする。</li> </ul> <p>〔最終選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次投票の対象となった校名案候補に対し、商標権等の調査を行う。</li> <li>・商標権等の調査結果を踏まえ、構成員による二次投票を行う。</li> <li>・商標権等の調査及び二次投票の結果を参考に懇話会で校名案候補を選考する。</li> </ul>
<p><b>公募方法</b></p>	<p>①期間：令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日（1カ月間）</p> <p>②内容：校名案と理由</p> <p>③方法：郵便、FAX、電子メール、両校事務室へ持参</p>

### <今後の流れ>

- ・意見交換を踏まえて学校運営検討ワーキンググループで選考の観点と選考方法について再検討
- ・検討結果を受けて県教委が募集要項案を作成